

公的統計ミクロデータ研究コンソーシアム第37回運営委員会

議事録

1 日時 令和7年10月1日（水）16時00分～17時00分

2 場所 オンライン会議（ZOOM）

3 出席者（運営委員） 南委員長、伊藤副委員長、岡本委員、河野委員、小松委員
高部委員、羽鳥委員、深野委員

4 概要

(1) 前回の議事録の確認

第35回運営委員会（オンライン）の議事録について、資料3に沿って説明・確認を行った。既に確認済みの内容ではあるが、改めて確認した上で、異議がある場合は事務局まで連絡するよう依頼があった。

(2) 第1号議案：公的統計ミクロデータ研究コンソーシアムシンポジウム2025開催について 資料4に沿って説明を行った。

<チュートリアルセッション>

- 今年度のシンポジウムは設立10周年記念にあたる。チュートリアルセッションは、現在プログラムを再検討中である。

<午後の第一セッション>

- 「わが国の法制度に対応したリモートアクセスの留意点」については、事前に内容のすり合わせを行う予定であった。8月に同氏の講演を行った際の資料を参考として送付済みであり、内容に問題がないか確認を求めた。

→ お送りいただいた資料のようにリモートアクセスに関する注意事項をまとめたものであれば、基本的に問題ないと考えている。

- タイトルは「学術研究におけるリモートアクセス利用の留意点」に変更となった。
(後日追記)

<午後の第二セッション>

- 第二報告は3名による発表でよいか。

→ 第二報告と第三報告は関連しており、まずマッチングキーを用いたデータリンクエージの取組みについて説明する。これは統計関連学会連合大会で部分的に紹介したもので、オーディエンスからセキュア環境に関する質問があったため、その点も冒頭で説明する予定。

→ 続いて、国勢調査および社会生活基本調査におけるマッチングキーを用いたデータリンクエージ実験の内容について報告し、第三報告として、国勢調査と就業構造基本調査を用いた世帯リンクエージについて報告する。

5 報告事項

(1) 運営委員の交代について

運営委員の交代について、資料4に沿って報告があった。本件はメール審議で承認済み

資料 3-3

の内容となっている。

(2) 統計関連学会連合大会企画セッションについて

9月上旬に関西大学で開催された統計関連学会連合大会での企画セッションについて、資料5に沿って報告があった。

- 「公的統計における二次的利用の新展開とプライバシー保護研究の最新動向」をテーマに企画セッションを実施した。本セッションでは、「公的統計における調査票情報提供の最新動向」に関する講演のほか、経済安全保障プログラム（K-Pro）に関する4件の報告が行われた。
経済安全保障プログラムでは、公的統計データを用いた実証評価が行われており、その趣旨から本企画セッションに組み入れた。

(3) 公的統計ミクロデータのチュートリアルと SSDSE を用いた R 言語による分析演習ワークショップについて

8月上旬に統計センターで実施された SSDSE を用いた R 言語による分析演習について、資料6に沿って報告があった。

- SSDSE を用いた R 言語の分析演習を実施した。今回は試行的に7名程度の小規模な参加者で実施し、大変好評であった。今後は公的統計への関心を高める入り口として、初心者を対象に外部向けに開催することを検討しており、時期は本年度2月頃を予定している。

(4) NewsLetter8号発行について

NewsLetter8号発行について資料7(画面投影)に沿って報告があった。

- コンソーシアムでは年2回 NewsLetter を発行しており、特集記事としてインタビューを掲載している。今回は長崎大学情報データ科学部の4名による学部紹介インタビュー記事を掲載予定である。
- 本企画は大学における統計関連学部紹介の第2弾であり、長崎大学は理系のデータ科学部という点が特徴的である。現在最終確認段階であり、コンソーシアムのホームページに掲載予定。またオンサイト施設紹介として、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所の紹介記事と、オンサイト施設設置に伴うキックオフセミナーの内容を掲載している。

次回運営委員会は、11月の開催を予定。

以上